「トー横」における青少年の被害等の防止に係る情報連絡会　第２回議事要旨

【開催日時】令和６年２月９日（金）14時00分～１４時５８分

【開催場所】東京都庁第一本庁舎33階北塔　特別会議室N６

【参 加 者】東京都（生活文化スポーツ局都民安全推進部、
福祉局子供・子育て支援部、児童相談センター）
警視庁（少年育成課、新宿警察署）
新宿区（危機管理担当部、福祉部、子ども家庭部）
臨時相談窓口協力団体等（公益社団法人日本駆け込み寺、
NPO法人レスキュー・ハブ、
NPO法人非行克服支援センター）
※　教育庁（指導部）は業務の都合により欠席

１　開会・治安対策担当部長挨拶

- 本会では、臨時相談窓口の実施結果及び青少年を対象とするターゲティング広告の実施状況についての報告を行う。
- また、臨時相談窓口等にご協力いただいた民間支援団体から、「トー横」の現状等についてご報告いただく。
- 本日は、以上の内容を各機関で共有した後、意見交換を行い、検討を深めることとしたい。

２　臨時相談窓口の実施結果報告（都民安全推進部）

資料（臨時相談窓口「きみまも@歌舞伎町」実施結果）に基づき、報告

３　ターゲティング広告実施状況報告（都民安全推進部）

- １月末より、「トー横」等に関心がある青少年を対象として、「トー横」の危険性や、犯罪被害に遭わないための行動の必要性等を啓発するメッセージ動画を放映中。
- 媒体は、Instagram と YouTube。ロング、ミドル、ショートの３パターンを作成し、SNS の特性に応じたものを発信

４　臨時相談窓口協力団体等から直近のトー横に関する情報共有等

○　公益社団法人日本駆け込み寺

- 我々も土曜日に子ども食堂をやっているが、臨時窓口に来る子の数は多かったと感じた。ある程度広さがあり、ゆったり長時間滞在することができたのだろう。

- 来訪者は口コミで認知した者が多い印象。一度来た者が新しい子を連れてきた。家に帰れない、外が寒いという子が利用していた。
- 人の視線を気にしないで済むようなレイアウトであり、利用者は安心して使えたのではないか。その結果、実際に支援につなげることができたと感じる。
- 行政や専門職とのつながりがあまり持てずに、今まで不安を抱えていた子が気軽に安心して相談できる環境というのは今後も必要
- 行政が設置したことで変な人が入ってこない安心感があったのでは。また、トランプをしたり絵をかいたりと、子供たちが心地よく感じていたのが印象的
- 「トー横」の子がいるから怖い、行きづらいという声も聞いた。幅広い子が相談できる環境づくりが大切
- この界隈の子は飲酒や薬物をしている者が多い印象。そうした人の利用をどうするか今後検討する必要があるのでは。
- 利用するが、中々相談はしない子について、大人を相談相手として頼ってもらえるための信頼関係の構築をどのようにしたらよいかも課題
- 総じて、窓口は良かったとの印象。是非常設にしてほしい。

○ NPO 法人レスキュー・ハブ

- 仮運用ができたことは良かったと思う。今後常設できたら非常によい。
- 寒さしのぎとなったほか、アクセスが良かった。また、居心地が非常に良かったので、同じ子が繰り返し来る状況となったのだろう。
- 路上での声掛けで本人の主訴の引き出すことは、周りの目もあり非常に難しい。安心して信頼できる大人と話ができる場所があることで、普段しづらい話もでき、具体的な公助につなげることが可能ではと感じた次第
- 常設窓口でも、緊急対応を要する事態が起こりかねないことから、電話のやりとりだけではなく、例えば都職員が常駐するなどできればと感じた。
- また、日によって相談員も異なることから、引継ぎの方法等の細部も含めた、一層詳細な運用マニュアルの整備も必要である。
- 妊娠、性感染症、ホストクラブの売掛等、ある程度想定される事例ごとに、どこの機関に連絡をすべきかをまとめたリストを整備しておくべきではないか。あらかじめ協力団体と連携を構築してはどうか。
- 今回は、駆け込み寺とのつながりがある子が口コミで別の子を連れてきてくれた。場所は知っていても警戒する子は多く、ゼロの状態からのアウトリーチはなかなか難しい。彼らが困り事を抱えていても、信頼関係の構築に時間を要してしまう。そうした意味で、民間支援団体とは引き続きうまく連携すべき。
- 一度素性のしれない男が窓口にきたことがあった。出入りに関して、もうちょっと徹底が図れるといいのかなと感じた。

○ NPO 法人非行克服支援センター

- 今回の臨時窓口では、保護者からの相談に対応予定であったが、保護者からの具体の相談はなかったと聞いている。
- ２人の話を聞いて、私が想像していたよりもはるかにたくさんの子どもが来て、そして好対応もあったほか、様々な課題も見えてきたという意味では、この臨時窓口はすごくよかったのだなという印象
- 我々の活動について紹介するが、我々は非行の子どもへの支援と親の自助グループ「あめあがりの会」という親たちの会と共に活動している。親の会は、設立から約 20 年が経ち、会員が今 500 人くらいおり、約８割が親で、その他相談員や様々な方がいる。
- この会の発足直後から、若年女性が歌舞伎町のホストに貢いでしまった相談はあり、この歌舞伎町の問題は長い歴史があると感じている。
- また、「トー横」へ通う女の子の保護者からの相談も受けている。子供も大変だが親も大変であり、この歌舞伎町に来てしまう子どもたちの問題とは、すなわち、居場所の問題だなと最初から思っている。
- こうした居場所が確保できるように、親を支援する、そして、家庭だけではなく地域や学校も支援していく、そのような取組ができたらいいなと思っている。
- 常設窓口には自分の子供が心配な親や帰ってこない子供を探す保護者も来ると思う。その際は、否定的なスタンスで接するのではなく、寄り添った対応ができるとよいと思う。

５　意見交換

○　都民安全推進部

- 今回臨時窓口を行ってみて、改めて行政と民間の連携した対応が重要と認識できた。引き続き連携できればありがたい。
- 我々も実際に現場に足を運ばせてもらったが、子供の生の声というのはとても大切。現場で印象に残っている子供たちの声を教えてほしい。

○　公益社団法人日本駆け込み寺

- 臨時窓口が閉まった後、そこに通っていた青少年がこちらに来るようになった。もちろんしっかり対応するが、なるべく早めに常設窓口を開設してほしい。
- 少年たちはグループで来ることが多いが、そのグループと仲が良くない別のグループがいる際には行きたくないという声もあり、みんなまとめて一緒に入るというのは結構難しいと感じた。
- 充電や食べ物に関しては、すごく子どもたちも喜んでいた。
- お風呂にずっと入ってない子もおり、彼らの衛生面も考えられるような場所があればよいと思った。

○　NPO 法人レスキュー・ハブ

- 体が疲れている子が椅子を並べて横になっていたが、体を休められてよかったという声があった。
- 事業者から聞いたが、子供たちが何人か集まり、この場所にあと何があればさらによくなるか、そうした前向きな話をしていたということだ。

○ 子供・子育て支援部

- 児童相談所で「トー横」関連で保護する児童については、15、16 歳が多い。他方、臨時相談窓口の年齢構成では、それよりも若干高めとなっている。
- 普段、お二人は、「トー横」を居場所にしている子どもたちをよく見ていると思うが、来訪する年齢層は、概ね都が提示している資料の年齢層と一致しているのか。

○ 公益社団法人日本駆け込み寺

- 大体都の資料のような印象。最近は小学生まで来るが、数はそこまで多くなく、17 から 19 が多い。20 代の子たちも多いので、割合的にはこんな感じと思う。

○ NPO 法人レスキュー・ハブ

- 我々も同じような認識

○ 新宿区（福祉部）

- 自称だとは思うが、18 歳以上 24、25 歳ぐらいまでの人たちの生の声を教えてほしい。
- 生活が困窮している等の場合、地元区に流れてくることが非常に多く、その場合、負担は大きくなると思う。今後、都が常設の窓口を設置した場合、都とどのように連携をすべきか、考える意味でもそうした生の声が知りたい。

○ 公益社団法人日本駆け込み寺

- 警察の補導を避けるため、自分の年齢は嘘をついておかないといけないという認識がある子は多い。16 であっても 18、19 と言う子はかなり多く感じる。
- 年齢は見た目だけでは分からないことも多く、知り合ってしばらく経った時に本当の年齢を言い始めるケースもある。

○ NPO 法人レスキュー・ハブ

- 我々は、「トー横」も回っているが、大久保公園の周辺のアウトリーチも非常に多く、そちらは成人女性が多くなってくる。
- 困窮度合いが強く、行政の窓口に行ったら高い確率で生活保護の受給ができるのではないかと考えられる子たちでも、最終的に自分で辞退してしまうことが多い。
- どうやら、いろいろな事務手続きや今住んでいる所からの引っ越しなどについて、面倒に感じてしまうようで、それならばもう少し頑張ろうかなとなってしまうようだ。
- また、生活保護を受けるとしっかりしなくてはならず、それを怖く思う者もいるようだ。

○ 児童相談センター

- 「トー横」に関して、児童相談センターが扱う子供の多くは他県在住。警察が補導

し、保護者が引取りに来られないことから、警察から身柄付通告を受け当センターが一時保護を行うケースが多い。

- 翌朝、当センターからその所在地の県児相へ送ることとなるが、これがかなりの業務負担となっているのが実態。
- 皆さんが実際に関わっている中では、どの地域の子供が多いのかお聞かせいただきたい。

○ 公益社団法人日本駆け込み寺

- 東京都が一番多いと思う。その次に、千葉県、神奈川県、埼玉がその次だろうか。
- 若い子たちは、SNS を見て「トー横」が楽しそうだと思って来てしまう。印象として、４割ぐらいが地方からの子。北海道から来る子もいるし、本当に各地から来ているなという印象。

○ NPO 法人レスキュー・ハブ

- やはり関東はそれなりにいるなと感じている。
- それ以外にも、どこか遠くから来ているとは思う。我々が扱った中では、実際、福島県、岐阜県、沖縄県の子がいた。

○ 児童相談センター

- 他県から来た子についてそれぞれの所在地に移送した後の子供や家庭への支援は、所在地の児相や関係機関となるのだが、リピーターも多い。都や新宿区だけの問題ではなく、全国的な問題であり、国にも提言していく必要があるとも考えている。